

## 第 40 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 令和 8 年 1 月 2 6 日（月） 午後 1 時 3 0 分から午後 2 時 1 5 分

○開催場所 米子市上下水道局 大会議室（3 階）

○出席者

**委員(敬称略・順不同)**

稲田 祐二、田中 俊行、伊藤 徹、大山 亜紀子、川口 真弓、成瀬 以久、  
新田 ひとみ、祝部 大輔、清水 香代子（欠席者 木村 泰之祐、島津 志朗）

**米子市上下水道局**

下関上下水道事業管理者、石田 岳 副局長兼給排水課長、湯崎副局長兼総務課長、林  
副局長兼営業課長、山崎副局長兼下水道整備課長、横木経営企画課長、岡田浄水  
課長、山本剛水質管理課長、長澤水道設計監理課長、結城水道管路維持課長、濱田 倫  
副技術監兼計画推進担当課長補佐、羽柴経営企画課長補佐兼財務担当課長補佐、山内経  
営企画課長補佐兼経営戦略担当課長補佐、濱田 学 経営企画課係長、  
（事務局）白須総務課総務担当課長補佐、津村 謙 総務課調整官、森井総務課係長

○日程

1 議題

米子市水道事業計画「米子市水道ビジョン 2025（案）」の策定について

①米子市水道ビジョン 2025（正式案）について

②米子市水道事業計画の答申案について

案件説明 経営企画課長補佐兼経営戦略担当課長補佐 山 内 秀 将

○公開又は非公開の別 公開

○傍聴者数（報道関係を除く） 0 名

○会議資料の有無 有

○お問合せ先

米子市上下水道局 総務課総務担当 【電話】 0859-32-6112

## 議題 米子市水道事業計画「米子市水道ビジョン 2025（案）」の策定について

[案件説明：山内経営企画課長補佐兼経営戦略担当課長補佐]

### ①米子市水道ビジョン 2025（正式案）について

※「米子市水道ビジョン 2025（案） 資料」にて説明

#### 資料 1

##### 1 前回の水道事業審議会以降の経過報告

前回の審議会後に議事録とビジョン本文修正案を送付した。その後 10 月に米子市議会都市経済委員会において水道ビジョン（案）についての中間報告を行った。また、11 月～12 月の間にパブリックコメントの意見募集を行ったが、意見はなかった。

##### 2 米子市水道ビジョン 2025（案）の修正か所の報告

- ・ P34 に『配水池の統廃合』について文章を追記
- ・ P11 の経年管布設延長のグラフを修正
- ・ 表紙と裏表紙、目次を追加

#### 資料 2

##### 6－8 米子市水道事業実施計画表の説明

計画期間の合計で約 5 億 2 千万円の増加となった。主な理由は戸上水源地において令和 12 年から 15 年までの調整池の補修にアスベストが含まれている可能性が高まったためであり、撤去に係る費用の上乗せを行った。また、導・送・配水管の更新事業費が合計で約 1 億 9 千万円の増加となっているが、これは主に水道管支障移転工事費の増加によるものであり、それに対応した収入も増加している。また、本冊 P30 では、合計で 155 億円とさらに増加しているが、これは工事費に係る物価上昇分を見込んだためであり、投資財政計画には既に数値として反映している。

#### 資料 4

##### 1 投資・財政計画に反映した主な内容の説明

投資財政計画には令和 7 年度の補正予算と令和 8 年度の当初予算（案）の数値を見込みとして反映した。（主な変更点は赤字で記載）

##### 【収益的収入】

①給水収益の推計について、実績を考慮した令和 7 年度の補正予算額は当初予算の見込み額と比べて約 677 万円増加（率にして 0.25%の微増）する見込みとなったため、中間報告の予測額と同額を上乗せして算出した。

### 【収益的支出】

- ①支払利息の推計見直しは内閣府の予測に沿って3.1%~3.8%に利息が上がる見込みで算出した。
- ③人件費の見込みは、昨今の人件費の上昇を反映して10年間の比較で約6,500万円の増加と変更した。

### 【資本的収入】

- ②補助金等財源の確保について補助金額を見直しした。

### 【資本的支出】

先ほどの説明のとおり建設改良に係る事業費の見直しを行った。

## 2 収支の見込みについて説明

上記の結果、水道料金の改定を行わない場合、収支の見込みは令和10年に純利益が1億円を下回り、令和12年度に繰越利益剰余金が枯渇する見込みは変わらない。令和16年度の累積欠損金は記載の通り約23億3,700万円となった。

また、料金改定を行う場合は、計画最終年度の令和16年度に純利益は約7,500万円の黒字、繰越利益剰余金は約4億5,500万円となる見込みとなった。

## ②米子市水道事業計画の答申案について

### 資料3について説明

米子市水道事業計画の答申案について、水道事業審議会答申のたたき台として事務局案を作成した。今後留意することとして1から6まで記載しているが、水道ビジョンの内容と審議会でのご意見とを合わせて作成している。更なるご意見をいただきたい。

## 2 質疑応答

[議題] 米子市水道事業計画「米子市水道ビジョン 2025（案）」の策定について

### ①米子市水道ビジョン 2025（正式案）について

（委員）

資料2 6-8 米子市水道事業実施計画書の合計額約 137 億円と正式案 P30 6-8 米子市水道事業実施計画書の合計額約 155 億円の違いを伺う。

（事務局）

事前に送付した資料2の合計額は、前回の中間報告との比較である。正式案は、後に実施額に物価上昇分を加味した工事費を見込んで合計額を約 155 億円としている。

（委員）

正式案 P29、P30 6-8 米子市水道事業実施計画書の改良工事、更新工事には耐震化を含んでいるとの理解で良いか伺う。

（事務局）

その通り。新しい水道管は、耐震性を有したものを布設している。更新工事イコール耐震化である。

（委員）

国が水道管の耐震基準を見直してワンランクアップすると発表した。それにより工事額が増加傾向となるのかを伺う。

（事務局）

米子市は、既に国が見直した水道管の耐震基準で更新工事を行っている。このことによる工事額の増加は無いと考えている。

（委員）

ダウンサイジング、スペックダウンの意味を伺う。

（事務局）

ダウンサイジングは規模（水道施設等）を小さくする、スペックダウンは性能、能力（水道管口径ダウン等）を小さくするとの意味である。使い分けての検討で費用削減に努めている。

(副会長)

正式案 P39、P40【投資・財政計画シミュレーション】の利益剰余金が、中間報告と比べて R10 年度は約 7 億円の減、R16 年度は約 7 千万円の増となっている。そのメカニズムを伺う。

(事務局)

前回の中間報告に比べて正式案は、R7 年度が補正予算額、R8 年度が当初予算額を記載している。このため純利益、工事額等の増減により利益剰余金に変化している。

(委員)

物価上昇の影響が大きい中で、中間報告と比べて R16 年度の利益剰余金が増となるメカニズムを伺う。

(事務局)

数字は常に動いている。物価上昇は将来に向けて見込んでいるなかで R7 年度補正予算額（決算額）においては、給水収益の若干の上振れ、人事院勧告による人件費の増、金利上昇が大きな特徴である。利益剰余金の増加については、事業計画の見直しによる投資額の増減に伴うものである。

(委員)

米子市の水道事業において、国が謳っている分散型水道の対象となる事案があるのかを伺う。

(事務局)

現在、米子市においては小規模集落が少ないため、分散型水道は経済的に成り立たず適さないと考えている。

(委員)

簡易水道等の管理対象は無いとの考えで良いか伺う。

(事務局)

その通り。

(委員)

米子市水道ビジョン 2025 を承認いたしたく。

・・・異議なし・・・

## ②米子市水道事業計画の答申案について

(委員)

事項3 ダウンサイジング、スペックダウンに具体的な説明が必要と考える。

(事務局)

具体的な補足文章を追記する。

(委員)

事項4、5 文章表現が安心・安全ではなく安全・安心ではないかと考える。

(事務局)

検討する。

(委員)

事項1 今後、人口減少に伴って職員数も減少すると考える。AIの活用に頼りすぎは、技術者が育たない要因と考える。技術の継承についての考えを伺う。

事項3 官民連携の具体例を伺う。

(事務局)

2040年問題と言われている人口減少による労働人口の減少、並びに40%以上が55才である職員の高齢化を危惧している。

上下水道局では、以前より技術継承のために、職員が出来るところは職員でと知恵を絞って取り組んでいる。この技術力が災害等の対応に生かされている。今後も継続し事業を進めて行く。

官民連携の具体例として、水道の工事、修繕業務、並びに料金等の徴収業務を民間業者にお願いしている。今後も効果があれば検討して行く。

(委員)

最終的に頼りになるのは人である。更なる人材の確保と技術力の継承を要望する。

(委員)

事項1 適正な水道料金について、事業審議会、上下水道局かどちらで検討するか伺う。

(事務局)

現在、適正な水道料金の検討については、10年間の中期財政見通しとして、毎年の

決算時ごとに将来の見通しを示している。将来的な水道料金の減少は避けては通れない中で、水道料金の改定が必要と上下水道局当局で判断した場合は、改めて水道事業審議会に諮問という形を取らせていただく。それまでは、決算時に上下水道局当局で適正な水道料金を検討して行く。

(委員)

今回の地震で南部町において水源地でにごり水が発生した。断水が長期に渡った場合の広域連携として米子市と南部町で連絡管等の構想はないか伺う。

(事務局)

現在、連絡管等の構想は無い。今回は、飲料水としては不適合だったが生活用水として配水された。このため近隣市町の給水車による給水対策でフォローした。

(委員)

一部の修正点は除いて、米子市水道事業計画の答申案について基本的な部分は承認いたしたく。

・・・異議なし・・・

[事務連絡]

事務局 次回、第41回米子市水道事業審議会は令和8年4月に予定する。